

ヨーロッパに胎動する2つの図書館 続

— Bibliothèque de France と British Library —

雑誌閲覧課 寺 尾 隆

Bibliothèque de France その後

前号（「香散見草」20号）で、昨年1993年1月段階でのBDF建設の状況について、拙いレポートをした。

本年1994年1月再び訪れる機会を得たが、その工事は予想以上に進展していた。たった1年でこれほど様相が一変するとは少々驚きであった。先に述べた4冊の本が互いに向き合うように聳えるガラス張りのタワー（地上22階）は外観がほぼ完成し、初春の陽光を浴びて眩しくきらきらと煌めいていた。

問題を克服し、完成を目指し、さらなる変貌を遂げつつあるBDFを眼の当たりにして、歴史的なプロジェクトの進行を自身の眼で確認し、対峙できた喜びを感じた。

1993年7月、仏のツボン文化大臣はBDFの名称をフランス国立図書館（La Bibliothèque Nationale de France: BNF）とすることを発表した。現在のところ本年（1994年）6月までに外装を完了し、内装工事に移

り94年末までに建物全体を完成させる。その後設備、機器備品等の搬入を翌95年10月には完了し、資料の移転を行い、1996年中に開館する予定になっている。

また、現在の国立図書館（Bibliothèque Nationale = BN）は、新しく国立美術図書館（Bibliothèque Nationale des Arts）として生まれ変わることが発表されている。

The New British Library at St. Pancras

英国図書館（British Library = BL）は、ロンドンの北、セント・パンクラスに新館を建設し、現在ブルームズベリーにある大英博物館（British Museum = BM）からの移転作業を行っている。しかし、ここに至るまでの道のりは、まさに生みの苦しみとも言うべき受難続きであった。

ロンドン市内各所に分散する施設と資料を集中管理し、効率的なよりよいサービスを利



◀ フランス国立図書館
La Bibliothèque
Nationale de France
(BNF)



◀英国図書館 新館
The New
British Library at
St. Pancras

用者に提供するために新館建設の計画が実行に移された。

1976年に英国政府はセント・パンクラス駅に隣接する9エーカー（約3万6千平方メートル）の土地を建設用地として購入した。1981年に着工され、当初は1990年に開館する予定であった。総工費は4億5千万ポンド（約765億円）。しかしながら新館建設は資金難やトラブルのために一貫して遅延してきたのであった。

1978年のシャーリー・ウィリアムズ女史の批判に始まり常に酷評にさらされ続けた。BLは計画の変更が頻繁に行われ、開館日が幾度となく延期され、さらには納税者の税金を浪費しているという非難に耐えてきたのである。

BLは1991年にはその年次報告書の中で移転資金確保のための抜本的な経済対策の必要性を示唆している。セント・パンクラスへの移転は、政府単独の資金供給では継続できなくなり、BLの資料保存、調査研究、資料購入などの他の分野の活動費から予算を流用せざるを得なくなった。50以上の職種で給与の6パーセントがカットされ、BLの資料購入予算は過去6年間に渡って35パーセント削減された。ブライアン・ラング館長は、200タイトルもの自然科学雑誌の継続中止は自然科学分野の利用者に深刻な影響を与えていると声明を出している。

1992年11月には、地下の書架が塗装の不備のために数十マイルに渡って設置直後から腐

蝕し始めるというアクシデントに見舞われた。さらに追い打ちをかけるように新館の利用者サービス支援システムの1つである自動資料請求システム（Automated Book Request System: ABRs）に故障が発生した。これは設計ミスによるもので、配送のための通路が狭くまた段差が大きいため移動の際に資料に衝撃を与え、騒音を発生するというものであった。これらにより新館への移転計画は遅延を余儀なくされ、一時は開館の無期限延期という事態に陥った。

しかし、1993年4月新たなビジネスパートナーや政府委員会がプロジェクトの全面的支援を打ち出し、中でも世界最大級のコンピュータ企業であるデジタル・イクイップメント社が100万ポンド（約1億7千万円）相当のコンピュータシステムの提供を申し出た。そしてついにラング館長は1996年に一般の入館を可能にし、全面的開館をする旨を発表したのである。偶然にもBDFの開館予定と同じ年となった。

ヨーロッパに建設中の2つの図書館BDF（BNF）とBLについて概観してきた。確かに図書館の建設には多額の費用と多大な労力を要する。その多くの困難を乗り越えてまで建設を推進するそこには、図書館の学術研究・教育分野における計り知れない影響力、さらには図書館の社会的・文化的な真の重要性が本質的に理解され、認識されているからに他ならない。

終